

「関西地区の物流、陸・海・空」をテーマに
関西大学寄附講座の一環として物流施設見学会を開催

関西大学寄附講座受講生 17 名が
川崎汽船(株)、佐川急便(株)、神戸空港マリンエアを見学

社団法人日本物流団体連合会は5月30日(土)に関西大学商学部において現在開講中の寄附講座「物流の変革」の受講学生を対象に物流施設見学会を行ないました。この取り組みは、講座の一環として学生の物流に対する理解をさらに深めることを狙いとし、今年で4年連続の開催となりましたが、今回も学生・教職員から好評を得ました。

今回の見学会は「関西地区の物流、陸・海・空」をテーマに、約1日をかけて川崎汽船(株)神戸コンテナターミナル、佐川急便(株)神戸店、神戸空港マリンエアを見学し、学生・教職員を含め17名が参加しました。

午前10時30分にJR住吉駅に集合後、ポートアイランドにある川崎汽船(株)神戸コンテナターミナルに到着。事務所内にて、日東物流(株)の山花行雄 神戸港運ターミナルグループ長より、施設の概要・特徴・業務内容の説明を受けた後、事務所屋上より停泊中のコンテナ船へのガントリークレーンを利用した荷役などを見学しました。コンテナ船の雄大さ、コンテナ数の多さに圧倒され、学生からは驚きの声が上がりました。オペレーションセンターも見学させて頂き、実際に働いている方に直接質問を投げかける学生もいました。

次に、佐川急便(株)神戸店に移動し、白井康弘 神戸店長からご挨拶を頂き、関西大学OB・OGの皆さんと昼食をとりながら、懇談をしました。先輩から直接話が聞けるとあって、熱心に話を伺うなど積極的な学生が多く見受けられました。昼食後、施設の概要説明を受け、倉庫・カスタマーセンターを見学しました。その後、トラックホームへ移動し、環境・安全トラックの見学や自動仕分機での搬送の流れを見せて頂きました。

最後に、神戸空港マリンエアへ移動し、神戸空港管理事務局の永柄正智 主査の案内で、一般の人が入ることのできない消防施設を見学。緊急車両の大きさと、施設が滑走路横にあるため、至近距離で見る飛行機の飛び立つ姿に一同目を奪われていました。更に旅客ターミナルの展望デッキへ移動し、空港の概要、旅客・貨物の状況など説明を受けました。空港から見える海には、貨物船や対岸の関西国際空港も見え、最後は飛行機の着陸を見て、神戸空港マリンエアを後にし、三ノ宮駅で解散となりました。

今回の見学会は、関係各所の皆様に多大なるご協力を頂き、開催することができました。事前に佐川急便(株)の近藤宣晃 代表取締役専務 執行役員による「トラック運送業」、川崎汽船(株)村上栄一 専務執行役員の「外航海運」の講義が行われていた分、聞いて学ぶだけでなく実際に目の当たりにすることで、関西地区を支える陸・海・空の物流について、より理解を深めることができ、有意義な企画であったと思われま

以上

担当:(社)日本物流団体連合会

事務局 藤 篤 ふじしま

Tel 03-3593-0139

Mail: fujishima@butsuryu.or.jp



【写真上段：川崎汽船(株)神戸コンテナターミナル】

左：事務所屋上からコンテナ船の荷役を眺める関西大学の学生たち

右：オペレーションセンターで、学生が積極的に質問

【写真中段：佐川急便(株)神戸店】

左：関西大学出身OBを囲んで昼食

右：トラックホームにてお世話になった皆様と一緒に記念撮影

【写真下段：神戸空港マリニエア】

左：神戸空港の概要を熱心に聞く関西大学の学生たち

右：普段お目にかかれない空港内の緊急車両と記念撮影